

## 議案第51号

### 小田原市火災予防条例の一部を改正する条例

小田原市火災予防条例（昭和37年小田原市条例第29号）の一部を次のように改正する。

第3条第1項第8号中「きれつし」を「亀裂し」に改める。

第11条第1項第3号の2中「キュービクル式のものにあつては、」を削る。

第11条の2第1項第4号中「雨水等」を「その筐体は雨水等」に改める。

第13条第1項を次のように改める。

蓄電池設備（蓄電池容量が10キロワット時以下のもの及び蓄電池容量が10キロワット時を超え20キロワット時以下のものであつて蓄電池設備の出火防止措置及び延焼防止措置に関する基準（令和5年消防庁告示第7号）第2に定めるものを除く。以下同じ。）は、地震等により容易に転倒し、亀裂し、又は破損しない構造とすること。この場合において、開放形鉛蓄電池を用いたものにあつては、その電槽は、耐酸性の床上又は台上に設けなければならない。

第13条第3項を次のように改める。

- 3 第1項に規定するもののほか、屋外に設ける蓄電池設備（柱上及び道路上に設ける電気事業者用のもの、蓄電池設備の出火防止措置及び延焼防止措置に関する基準第3に定めるもの並びに消防長が火災予防上支障がないと認める構造を有するキュービクル式のものを除く。）にあつては、建築物から3メートル以上の距離を保たなければならない。ただし、不燃材料で造り、又は覆われた外壁で開口部のないものに面するときは、この限りでない。

第13条第4項中「前項」を「第1項及び前項」に、「第2項並びにこの条第1項」を「第11条の2第1項第4号」に改める。

第44条第13号中「蓄電池設備」の次に「（蓄電池容量が20キロワット時以下のものを除く。）」を加える。

別表第3厨房設備の項を次のように改める。

|      |             |      |            |   |                      |     |     |     |     |                          |     |
|------|-------------|------|------------|---|----------------------|-----|-----|-----|-----|--------------------------|-----|
| 厨房設備 | 気体燃料        | 不燃以外 | 開放式        | 組込型こんろ・グリル付こんろ・グリドル付こんろ、キャビネット型こんろ・グリル付こんろ・グリドル付こんろ | 14 kW以下              | 100 | 15注 | 15  | 15注 | 注 機器本体上方の側方又は後方の離隔距離を示す。 |     |
|      |             |      |            | 据置型レンジ  | 21 kW以下              | 100 | 15注 | 15  | 15注 |                          |     |
|      |             | 不燃   | 開放式        | 組込型こんろ・グリル付こんろ・グリドル付こんろ、キャビネット型こんろ・グリル付こんろ・グリドル付こんろ | 14 kW以下              | 80  | 0   | —   | 0   |                          |     |
|      |             |      |            | 据置型レンジ  | 21 kW以下              | 80  | 0   | —   | 0   |                          |     |
|      | 固体燃料        | 不燃以外 | 木炭を燃料とするもの | 炭火焼き器   | —                    | 100 | 50  | 50  | 50  |                          |     |
|      |             | 不燃   | 木炭を燃料とするもの | 炭火焼き器   | —                    | 80  | 30  | —   | 30  |                          |     |
|      | 上記に分類されないもの |      |            |   | 使用温度が800℃以上のもの       | —   | 250 | 200 | 300 |                          | 200 |
|      |             |      |            |   | 使用温度が300℃以上800℃未満のもの | —   | 150 | 100 | 200 |                          | 100 |

|  |  |                    |   |     |    |     |    |  |
|--|--|--------------------|---|-----|----|-----|----|--|
|  |  | 使用温度が300℃未満<br>のもの | — | 100 | 50 | 100 | 50 |  |
|--|--|--------------------|---|-----|----|-----|----|--|

## 附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、令和6年1月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例の施行の際現に設置されている燃料電池発電設備、変電設備、内燃機関を原動力とする発電設備及びこの条例による改正後の小田原市火災予防条例（以下「新条例」という。）第13条第1項に規定する蓄電池設備（附則第4項に規定するものを除く。以下この項において「燃料電池発電設備等」という。）又は現に設置の工事中である燃料電池発電設備等のうち、新条例第11条第1項第3号の2（新条例第8条の3第1項及び第3項、第12条第2項及び第3項並びに第13条第2項及び第4項において準用する場合を含む。）の規定に適合しないものについては、同号の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 この条例の施行の際現に設置され、又は設置の工事がされている新条例第13条第1項に規定する蓄電池設備（次項に規定するものを除く。）のうち、同条第1項の規定に適合しないものについては、同項の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 4 新条例第13条第1項に規定する蓄電池設備に新たに該当することとなるもののうち、この条例の施行の際現に設置されているもの及びこの条例の施行の日から起算して2年を経過する日までの間に設置されるもので、同条の規定に適合しないものについては、同条の規定は、適用しない。

令和 5 年 9 月 1 日提出

小田原市長 守 屋 輝 彦

(理由)

対象火気設備等の位置、構造及び管理並びに対象火気器具等の取扱いに関する条例の制定に関する基準を定める省令が一部改正され、近年の各種の蓄電池設備の普及状況等を踏まえ、合理化の観点からその設置要件等の見直しが図られることに伴い、これに応じた措置を講ずる等のため提案するものであります。